同窓会会報の題字のことなど

上原 昇（2 組）

図書館から貸出を受けた本『満洲国グランドホテル』(平山周吉著、芸術新聞社から 2022 年 4 月刊）を読み出して、ふと、ある箇所で目が止まった。

石橋湛山が満洲視察した章で登場する「稲垣征夫」という名前に何故か？見覚えがあったからだ。本の中では、満洲国開拓総局長とあるから、相当古い時代の人である。

関東同窓会会報の題字『うえだ』は、下に故稲垣征夫氏（14 期）に依るとある。【写真】

幸い、同窓会ＨＰには昔からの全会報が収録されているので、さっそく検索してみた。すると、昭和 46 年 6 月 15 日に発行された会報 5 号に、直前に亡くなった稲垣征夫氏の追悼記事が大きく掲載されていた(https://uedakant.sakura.ne.jp/kaiho/1-/5go.pdf)。

それを見ると、本に出てくる稲垣氏と同一人物であることが分かった。

プロファイルには、明治 30 年（1897 年）生、小諸市出身、同窓 14 期、東京帝大（法）卒、商工省入省、満洲国へ渡る・・・とあり、関東同窓会（当時は関東支部）では第 3 代会長（当時は支部長）を務め、昭和 46 年（1971 年）に 74 歳で亡くなっている。

筆者（上原）は稲垣氏と会ったこともないが、記憶に残っていたのは、以下の場面に遭遇したからである。時期は定かではないが、およそ 20 年以上前であったか。関東同窓会の幹事会で、ある若手会員が「同窓会の会報の題字は古臭いから、一新して現代風にしたら」といった意見を述べたところ、年配の会員が血相を変えて、「この題字は誰が揮毫したのか知っているのか。会報創刊号が発行された昭和 44 年当時の稲垣支部長の書いたもので、失礼なことを言うものではない」と反論して、意見は即却下された。

筆者も稲垣氏がどれだけ偉い人だったかは知らなかったが、その名前だけは頭の片隅に残っていたのである。従って、題字は創刊以来、今日まで変わっていない。

今回改めて、昔の会報を紐解き、稲垣大先輩の一端を知ることとなった。関心のある人は、会報 5 号を覗いてみることをお薦めしたい。

500 ページを超える大冊の上記の本は、１週間後、やっと読み終えた。

【関東同窓会会報の題字】

（2023 年 2 月 20 日記）